

事業報告書

1 支援団体名	本明川を語る会
2 事業名称	第10回諫早大水害を語り継ぐ～7月25日を忘れない～
3 実施日時	平成30年7月21日(土) 13:00～15:30
4 実施場所	諫早市民センター
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>本年は昭和32年7月の諫早大水害から61年を迎える。諫早大水害を風化させないために、水害記録映画上映・体験者手記朗読・体験者談・水害遺構紹介などを通して、その災禍を語り継ぎ、安全・安心なまちづくりを目指す。</p> <p>(1) 体験者手記朗読 『八人のいはいをだいて』(六年林 信行) 朗読：中野美津子</p> <p>(2) 体験者談：寿柳 展</p> <p>(3) 長崎大学工学部学生発表</p> <p>(4) 「眼鏡橋由来」講話</p> <p>(5) 子ども劇「諫早眼鏡橋今昔物語＝ミニ眼鏡橋の帰郷～」</p> <p>(6) 本明川の歌『本明川に捧ぐ』『とっても大切なもの』斉唱：コールすみれ、葡萄の会</p>
	<p>(事業実施効果)</p> <p>(1) 10回目の事業であったが、継続することの重要性が確認された。</p> <p>(2) この事業を通して、最近の想定外の大災害発生を身近に感じ、水害の恐ろしさ・生命の尊さが再認識され、日ごろの防災対策の必要性など防災意識の高揚が図られた。</p> <p>(3) 本明川を語る会の地道な活動が評価され、行政・関係団体・市民等に広く周知してもらう機会になった。あらためて継続することの重要性を再確認できた。</p>
6 参加内訳	総人数 150名
	(1) 主催者参加 20名
	(2) 日本人参加((1)を除く) 130名
	(3) 外国人参加((1)を除く) 0名
7 今後の方針	<p>(1) この事業の成果・課題などを検証し、内容を充実させる。</p> <p>(2) 行政との協働体制を維持する。長崎河川国道事務所と諫早市の全面的な支援を得る。また助成金を活用して、必要経費を確保する。</p> <p>(3) 若い世代のアイデアや企画を活かし、若者の参加を呼び込む。</p>

防災パネル展



体験者手記朗読



体験者談



長崎大学生発表



眼鏡橋由来



劇「諫早眼鏡橋今昔物語～ミニ眼鏡橋の帰郷」

